

単元名: Tomodachi ni narimasenka?		
氏名: 酒井 春菜	学校名: 神戸市立菅の台小学校	
担当教科: 全教科	実践教科: 総合的な学習の時間	
時間数: 11時間	対象学年: 小学6年生	人数: 51名 (2学級)

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標 (評価の観点を意識して設定) : 異文化理解	
ペルーの文化を調べたり、現地の小学生と交流したりする活動を通して、自分とは違う文化や習慣、考え方、価値観があることに気づき、多様な他者によりよく関わるためにできることを考え、協働してペルーの小学生と交流しようとするができるようにする。	
【2】単元の評価 基準	(ア) 知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・ペルーには日本と異なる文化があることを理解している。 ・ペルーの文化について調べ、ICT機器を用いて発表している。
	(イ) 思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・ペルーの小学生と交流するために必要なことを考え、学習の見通しを持っている。 ・ペルーの文化を日本の文化と比べ、共通点や相違点、その特徴について考えている。 ・自分とは違う文化や習慣、考え方、価値観があることに気づき、多様な他者によりよく関わるためにできることを考えている。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもってペルーの小学生との交流活動に進んで取り組んでいる。 ・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学びあおうとしている。
【3】単元設定の理由	<p>児童たちは、授業者がペルーの小学校を訪問すると知り、現地のホセ・ガルベス校の小学生への贈り物として、折り鶴アートを一学期に制作している。制作においては相手が喜ぶように、日本とペルーの仲が深められるようにと、まだ顔も知らない相手でも大切にしようとする姿勢が見られた。一方で、普段の学校生活においては、他人や他国に対して心無い言動が見られる。そういった言動には、児童たちの持つ常識に当てはまらない考え方に対するものや、表面的な情報に惑わされているものが見られる。そこで本単元を通して、ペルーの小学生と交流することで、自分とは異なる文化や考え方に触れ、多様な価値観を受け入れようとする姿勢を育みたい。</p> <p>授業者が訪問したペルー共和国は日本と深い関係がある。19世紀終わりから20世紀初めにかけてペルーへ渡った日本人移住者は、日本の伝統を受け継ぎながら、ペルー社会に大きな貢献をしてきた。それが、今日の良好な二国間関係の礎となっている。本単元で交流したホセ・ガルベス校も日系の学校である。遠く離れた国で日本の考え方や価値観が大切にされていることを紹介することで、ペルーを身近に感じるとともに、日本のよさを感じるきっかけにもしたい。</p> <p>授業では、児童の贈り物を受け取ったホセ・ガルベス校の子供たちの反応を映像で見せたり、互いに友達になりたいという気持ちを持っていることを伝えたりすることで児童が交流活動を楽しみに学習を進められるようにした。また、児童が抱くペルーの文化や学校に関する質問を授業者が預かり、ホセ・ガルベス校を訪問した際に現地の小学生に答えてもらった。単元前半の調べ学習ではその回答を題材にした。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容 	

単元全体を通して対話を意識した。その際、フォトランゲージを取り入れることでどの子どもが意欲をもって参加できるようにした。ペルーの小学生と交流することを通して、異なる価値観や考えを受け入れる姿勢を養うことが、隣の友達を大切にしようとする気持ちにつながってほしいという思いを込めた。

【4】展開計画(全11時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>テーマ 「自分以外の国や人と仲良くするってどういうことだろう?」</p> <p>ねらい 国や文化の異なる人々と仲良くなるために必要なことを考え、学習の見直しを持つ。</p> <p>目指す授業後の児童の姿 ペルーの小学生と交流したい! ペルーについて知りたい!</p>	<p>①平和学習を想起する。夏休みの課題の中で「平和とは自分以外の国や人と仲良くすること」と書いた児童がいたことを取り上げる。</p> <p>②授業者のペルー訪問に際して、児童はペルーの小学生に贈り物を制作した。ペルーの子供たちが喜んでいたり、児童たちと友達になりたいと言ってくれていたことを紹介し、交流することを提案する。</p> <p>③仲良くなるために必要なことを考え、意見を出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・神戸新聞の記事(児童たちの贈り物が現地校に渡った際の写真) ・ペルーの子供からのメッセージ ・付箋
2 3	<p>テーマ ペルーについて調べる</p> <p>ねらい 相手の国(ペルー)について自分たちで調べたり、友達の発表を聞いて知ったりすることで、より興味を持ったり、日本との違いに気づいたりする。</p>	<p>①児童らがペルーについて現地の小学生へ送った質問、その回答を紹介する。</p> <p>②ペルーについてテーマを分けて調べる。グループごとに①をもとにした6テーマに分かれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化(祭りなど) ・学校生活(ルール・教科など) ・食べ物 ・遊び、スポーツ ・音楽、民族 ・特産物、観光地 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の質問に対するペルーの小学生からの回答 ・発表ノート
4	<p>目指す授業後の児童の姿 ペルーと日本では違うところがたくさんあるな。 ペルーについて知ると日本のことにも疑問が生まれてきたな。</p>	<p>①ペルーについて調べたことを班ごとに発表する。聞き手は気づきメモを取りながら聞く。</p> <p>②文化体験として、ペルーの楽器に触れる。</p> <p>③振り返り。ペルーについて知って、感じたことや驚いたこと、もっと知りたいことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気づきメモ ・ペルーの楽器(サンボニーヤ、ケーナ、オカリナ、カリンバ)
5	<p>テーマ ペルーにある日本文化(日系文化)について知る</p> <p>ねらい ペルーと日本には深い関係があることを知ることで、日本との共通点やつながりに気づく。</p>	<p>①ペルーの日系学校、日系人協会の写真を見て、見つけたこと、考えたこと、疑問を出し合う。(フォトランゲージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人ホームの様子(日本人に見える年配の日系人の方々) ・日系(フュージョン)料理 ・日系学校の階段の掲示(5S=整理・整頓・清掃・清潔・しつけ) ・教室の様子(整理整頓が行き届いている) 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージ用の写真 ・付箋 ・丸シール

	<p>目指す授業後の児童の姿 ペルーにも日本のものがたくさんあるんだ! ペルーの学校でも、日本の考え方が大切にされているんだ! 日本っていい国だな。</p>	<p>②ペルーの日系社会について簡単な歴史を知る。「ペルーのあらし」より「日系移民」を読む。(『世界のともだち16 ペルー』P.39) ③振り返り。ペルーと日本のつながりについて知って、感じたことや驚いたこと、もっと知りたいことを書く。</p>	
6 本時	<p>テーマ 相手の行動の背景にある慣習や文化を想像することの大切さに気付く。</p> <p>ねらい 相手の背景を想像することで、周りの人の行動の理由を理解しようしたり、尊重したりする態度を養う。</p> <p>目指す授業後の児童の姿 自分にとって当たり前のことでも、国や文化が違ったら当たり前ではないのだとわかった。 ほかの国の人と仲良くするには相手の文化を知っておくことが大切だと思った。</p>	<p>①アクティビティ「もしかして…」を行う。 「もしかして…」 1)お題を読む。 2)そのお題の状況に対して「もしかして…」と考えられる状況を付箋に書いて出し合う。 3)全体で共有する。 4)そのお題の背景を表す写真を見る お題1 手食文化について お題2 ハラルフードについて お題3 ペルーの避難訓練について</p> <p>②ペルーの避難訓練の映像を見る。日本の避難訓練とは様子が異なることから、国や文化が違うと当たり前も異なることに気付く。そして「もしかして…」と、相手の背景を理解し尊重することが大切であることを振り返る。</p> <p>③2つの視点から選んで振り返り。 ・「もしかして…」と相手の背景を考えることができたか。 ・ペルーの小学生と交流するとき大切にしたいことを考えることができたか。</p>	<p>・お題カード ・付箋</p>
7 8 9 10 11	<p>テーマ ペルーの子供たちと友達になろう!</p> <p>ねらい 前時までの学びを生かして、ペルーの小学生と友達になるためにどのような活動をするか考え、交流する。</p> <p>目指す授業後の児童の姿 ペルーの小学生と仲良くなれた。交流が楽しかった。 ペルーが自分にとって大切な国になった。 ペルーのニュースが前よりも気になるようになった。</p>	<p>①どんな交流をすれば仲良くなれるか、計画を立て、準備をする ・ビデオレターを送りあう 内容 ・日本の遊び ・日本の料理 ・日本の観光地 ・日本の学校生活</p> <p>①交流をする ②振り返り。交流して感じたことを書く。</p> <p>①交流して教えてもらったことをもとに体験できることを実際にやってみる。 ・ペルーの遊び ・ペルーの料理 ②単元全体の学びを振り返る。</p>	

【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (3分)	1.単元のテーマを想起し本時の課題を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動が主体的に進むように前時の話題をふり返る。 ・ふり返りカードを提示し、児童が本時の課題を意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント
展開 (32分)	国や文化が異なる人と交流するとき大切なことを考えよう		
	2. アクティビティ「もしかして…」を行う (1)お題を読む。 (2) そのお題の状況に対して「もしかして…」と考えられる状況を付箋に書いて出し合う。 (3) 友達が出した考えに共感したら、その付箋に共感シールを貼る。 (4) パネル内側の写真を見る 3. 交流して考えたことを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分とは違う文化や習慣、考え方、価値観について写真を見たり意見を交流したりして考えようとしている。(発言) ・お題の答えとなる状況以外にも考えられる文化背景をパネルや映像で紹介する。パネルにはヒントとなる国旗や文化の特徴が写った写真を入れることで、児童が多様な価値観や文化に気付けるようにする。 ・ペルーの避難訓練の様子が日本とは異なることから、国や文化が違うと常識も異なることに気付かせ、「もしかして…」と考えることが相手を尊重することにつながることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋 ・丸シール ・動画 ・発表ノート
まとめ (10分)	4. ふり返りを行う。 2種類のふり返りカードから選択する。 緑…ペルーの小学生と交流するとき大切にしたいことを考えることができた。 青…今日のカードのお題を読んで「もしかして…」を考えることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りの発表は色分けしたカードを投影し、意見の多い観点を先に取り上げてから、本時の課題をより深く考えた発言へとつなげ、児童の気づきを広げられるようにする。 ◆多様な他者とよりよく関わるためにできることを考えている。(発表ノート) 	

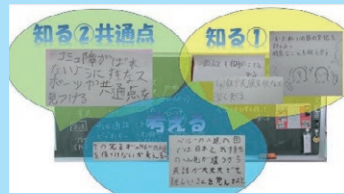
アクティビティ「もしかして…」について

本アクティビティはJICA中国『「多様な社会」を考える』に掲載されたアクティビティ

「もしかしてだけど!」を参考に、本校の児童の実態に合わせて方法や教材を一部変更して行った。

【授業実践の様子】

導入



国や文化が異なる人と交流するときに大切なことを考えよう

今日のゴール

ペルーの小学生と交流するときに大切にしたいことを考えることができた。

今日のカードのお題を読んで「もしかして!」を考えることができた。

展開:アクティビティ「もしかして…」

お題①

①給食の時間。今日はご飯の日。
え!!!アミールさんが手づかみで食べた!
行儀(ぎょうぎ)が悪くないかな…



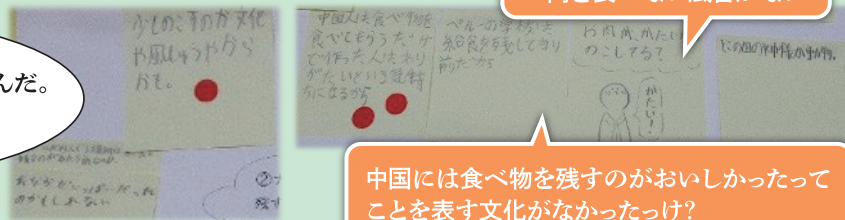
お箸が折れちゃったんかも。

インドやっけ?手で食べる文化がある!

え!?(思わず笑ってしまう児童も)

お題②

②ナディアさんはいつも給食を残すんだ。
しかもお肉ばかり。もったいないよ!



肉を食べない風習かな?

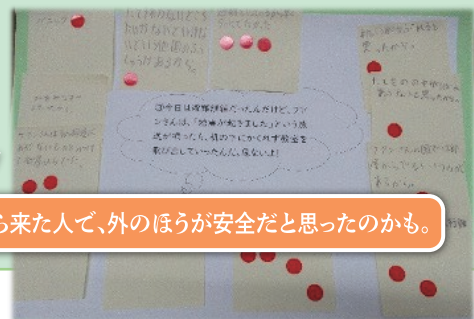
中国には食べ物を残すのがおいしかったってことを表す文化がなかったっけ?

お題③

③今日は避難訓練だったんだけど、
ファンさんは、
「地震が起きました」という放送が鳴ったら、
机の下にかくれず教室を飛び出していったんだ。
危ないよ!

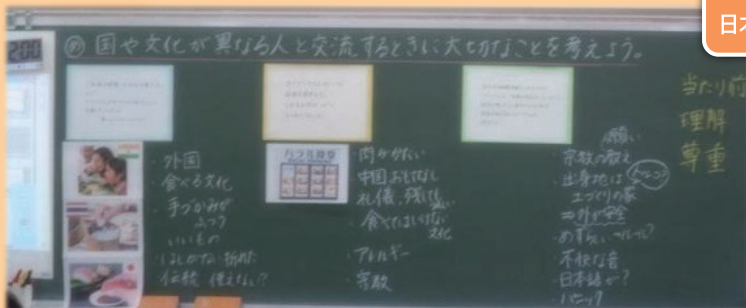
怖くなったのかな?

土づくりの家が多い国から来た人で、外のほうが安全だと思ったのかも。



まとめ

避難訓練は静かに並ぶという日本の避難訓練の当たり前とは違う!



[6] 本時の振り返り

前時までにはペルーについて調べたことで、児童はペルーと日本との違いに関心が高まっていた。そこで本時の活動を行ったことで、お題に対して異文化理解の視点をもってその背景を考えられていたように感じる。また、異文化に対してはもちろん、一緒に活動する友達に対しても終始互いを尊重する姿勢が見られたのがよかった。

今日のカードのお題を読んで「もしかして！」を考えることができた。

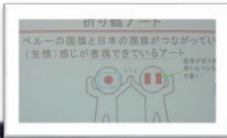
自分たちがやってない事をやっている国もあるしもしかしてこんなじゃないとかを班で話したりして意見を聞きあってお互いの意見に否定をせずに話し合っって意外なことやなるほどと納得したりしました。ペルーやインドやタイなどお箸を使わない国もあれば地震の時に外に逃げる国もあるとはあもいませんでした。

ペルーの小学生と交流するときに大切にしたいことを考えることができた。

今日の授業で日本とは全く違う文化や考え方を持っているという事を再認識しました。特に食べ物を素手で食べるのは少ししか理解してなかったらつい、「何してんの(汗)」となるから知れてよかったです。今日理解したこと以外にもたくさん独自の考え方があると思うのでなんでも日本の当たり前で決めつけないようにしたいです。ただペルーの人たちからしても日本の文化は自分たちと同じようにおかしいと思うのでお互いに理解することが大事だと思います。

[7] 単元を通した児童生徒の反応/変化

夏休み前(ペルー訪問前)



先生がペルーに行くことになりました！ペルーの小学生に贈り物をしたいから手伝ってませんか？

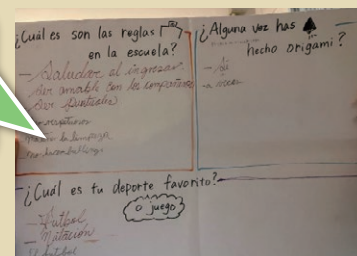
折り鶴アート

- 1組：ペルーの国旗の色で日本の桜を作りたい！
- 2組：ペルーと日本の国旗が手をつないでるようにしたい！

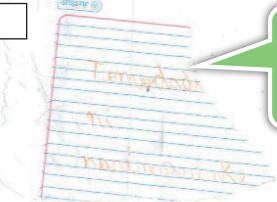
ペルーの子供たちへの質問

- ・好きなスポーツや遊びは何ですか。
- ・ペルーの有名な食べ物は何ですか。
- ・学校にはどんなルールがありますか。
- ・日本に対してどんなイメージを持っていますか。
- ・友達になってくれますか。

画用紙に書いて現地で答えてもらい、日本に持ち帰りました。



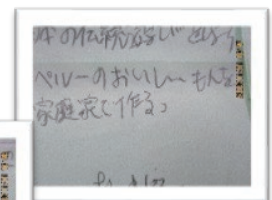
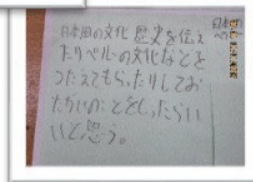
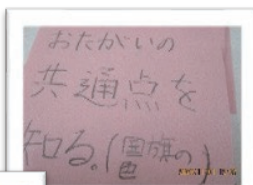
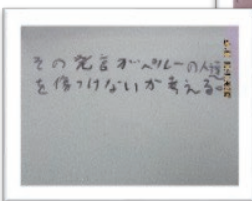
第1時



訪問した日系人学校でペルーの子供から受け取ったローマ字のメッセージ「Tomodachi ni Narimasenka?」をもとに単元をスタート。

友達になるー!!!

仲良くなるために必要なことは？



第2~4時

まずはペルーのことを知りたい!

班ごとにテーマを分担
発表ノート (Skymenu) で
まとめて発表しました。



1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏休み	1学期	2学期	夏休み	3学期	4学期	母の日 父の日		スポーツ大会			

ペルーの宿題 基本的に宿題がない

日本とは比べて	ペルーの学校	日本の学校
4学期まである	3学期まである	
春休みがない	春休みがある	
音楽会がない	音楽会がある	
スポーツ大会がある	運動会がある	
宿題がない	宿題がある	

より選り
日本の学校文化と違うところが多かったけど、似ているところもあった。

ふりかえり

文化の特徴や日本との違い
について考えることができた

今回みんなの発表を聞いたり発表をしてお祭りや伝統にそれぞれの国の特徴が出ていたなと思いました。ペルーは浜手だったりももいた民族の文化が大きく出ているなと思いました。逆に日本の文化を考えるとペルーより落ち着いているなと思いました。学校生活のついでにも義務教育の長さの違いに驚きました。夏休みの期間は日本よりペルーのほうが長くて羨ましいです。スケジュールは日本と似ているなと思いました。地形の違いも文化としてでて面白かったです。

文化や暮らしについて
新しく知ることができた

ペルーのことについてとか全然興味とかなかったけど、ペルーの人たちと仲良くなるために自分は、伝統で『クスコの水かけ祭り』について調べてみたらペルーはとても面白い祭りとか学校とか遊びを知れてうれしかったし、『クスコの水かけ祭り』を発表してから、クラスの何人かが2月にペルーに行きたい!という声が出てきてうれしかったし、ペルーのことを知ることでペルーに行きたいという気持ちが大きくなってきて、とてもたくさんのお話を聞いて、楽しかったです。

- ・日本とペルーの違いとところがたくさんあること (異文化) への気づきが多くあった。
- ・日本を客観的に見直すことで、これまでと違ったものの見方に気がつく児童が出てきた。

第5時

日本とペルーの共通点があればさらに仲良くなれそう!

フォトランゲージ

日系移民について

日系人学校について

せいり、せいとん...
先生、これ読めるで!!
日本語や!

ふりかえり

なぜ日本とつながっているの
かを知ることができた

ペルーでは日系移民がいて、だからペルーと日本につながっているなと思いました。ペルーの学校の学習にもあったけど日本の文化が大切にされているんだなと思いました。料理とかもペルーと日本の料理を組み合わせたいものがあったりすることとかもつながっていると感じました。知る前は日本とペルーに何の関係があるのかもわからなかったけど日本との違いや似ているところ、関係性を知ってつながっていることが実感できました。

学校のルールや右側通行などが日本との共通点があることを知り、私たちが普段守っていたりしなかったりしたルールは、ペルーの子供たちにとっても同じことだったんだと思いました。またペルーの学校の子供たちはこのルールをちゃんと守っている聞いたので「ちゃんとやらないとな」と改めて実感しあちらの学校を見習わなければならないなと思いました。また日系ペルー人の方は見た目は日本にもいる男性女性なのに育った場所や住む場所が違うと話す言語も行ってきた文化も違うということや自分の育ってきた場所に誇りを持っているのだなと思いました。

- ・日系移民や日系文化についてほとんどの児童が初めて知った。
- ・ペルーでも日本の文化が大切にされていることを知り、自分たちも大切にしたいと考える児童がいた。

第6時(本時)※上記【授業実践の様子】

文化が違ったら考え方も違うかもしれない…

- ・初めは驚いてしまうような行動でも、異なる文化があることを知ると納得ができ、相手の背景を知って、尊重することが大切だと気が付く児童が多くいた。
- ・反対に、日本の当たり前が外国人にとってはおかしな行動に見える可能性があることにも気づき、自分たちにとって大切なことも伝えてお互いに尊重しあいたいと考える児童もいた。

第7時～ホセー・ガルベス校(ペルーの日系人学校)との交流

ビデオレターを送りあおう!



〈遊び紹介チーム〉
準備が不要で簡単に遊べる「指スマ」を紹介したい!



〈観光地紹介チーム〉
修学旅行や校外学習で行ったことのある場所を紹介したい!



〈学校紹介チーム〉
ペルーの学校との共通点を紹介したい!
出席番号のところにカバンを入れるのはペルーも日本も同じだったな!

〈料理紹介チーム〉
お互いの国のおいしいものを食べたら仲良くなれるはず!!
身近な日本料理で自分たちが作れるお味噌汁を作って紹介したい!



【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

単元を通して、児童がペルーの学校や小学生とのつながりを感じられるように工夫した。特に子供たちは夏休み前に自分たちが制作した贈り物・折り鶴アートが現地の小学生にとっても喜ばれたことを知ったときには、「交流したい」という意欲がより一層高まったように思う。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

これまで児童たちには外国語の授業を除いて、ほかに国際理解の学習の機会はなく、ペルーについてもほとんどの児童が国名しか聞いたことがなかった。一方で外国への興味・関心は高く、ペルーの小学生への贈り物の制作にはどの児童も意欲的に取り組んでいた。

(授業後)

ペルーについて日本とは違った独自の文化についてだけでなく、日系移民と彼らが伝えてきた日系文化について詳しく知ることができた。特に自分たちが守っている整理整頓などの決まりがペルーでも守られていることは印象深かったようで、ペルーを身近に感じるきっかけになっていた。

さらに児童は異文化について知ることを通して、自国の文化を客観視するようになった。当たり前と思っていたことがそうではないかもしれないと気づいたり、自分たちの文化が外国人の目にはどう映るのか想像したりする姿から、児童の意識の変容が感じられた。

【8】自己評価

1. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・時間が限られる中で、日系移民の歴史についてどのように、またどの程度深く伝えるべきか悩んだこと。 ・時差が14時間あるため小学校の時間割では現地とオンラインで交流することができず、交流方法を工夫する必要があったこと。 ・児童がペルーとのつながりを感じられるように、できる限り実物や写真を用意したこと。 ・ビデオレター作成や交流の打ち合わせにおいてスペイン語翻訳をする必要があったこと。
2. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生について考える時間が十分に取れなかったため、児童が異文化を知ることにとどまってしまった。理解したうえでどのように行動するべきか考えるところまでじっくりと学習ができるよう単元計画を改善したい。
3. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が作った作品をペルーに届けたり、事前に書いた質問に対して現地の小学生に答えてもらったりしたことで、ペルーとつながっていることを児童が実感できたこと。 ・単元の最後にペルーの小学生と交流する活動を設定したことで、それまでの学習における視点が整理されたこと。特に調べ学習における振り返りで日本を客観的に振り返る視点が出たこと。

添付資料: 現地で撮影した写真



日系人協会のデイサービス



日系料理



日系人学校の様子



5S (=整理・整頓・清掃・清潔・しつけ) の掲示

参考資料:

鈴木智子.世界のともだち16 ペルー.偕成社,2014,p.39